

2012 年植林作業報告

以下のように、植林作業を実施したことを報告します。

1. 植林作業実施概況

植林 実施日	春季	残木・切株除去作業・・・5月初旬 溝掘り作業・・・・・・・・・・5月5日～7日 植林作業・・・・・・・・・・5月8日～9日 (新規植林 20ha)		
	秋季	植林作業・・・・・・・・・・9月下旬～10月上旬 (再植林) 春季植林箇所での活着不良箇所		
植林場所	モンゴル国セレンゲ県トジーンナルス周辺タリーンノロー			
出資者	委託企業	トライウォール株式会社／エコフィン生命の森		
	寄付支援 企業・団体	株式会社 KSG インターナショナル／GNC 共存の森		
		SOTO 禅インターナショナル／GNC 共存の森		
		ラウル株式会社／GNC 共存の森		
		エコフィン特約店葬儀社／生命の森		
		公益社団法人国土緑化推進機構緑の募金／日・モ友好の森		
		株式会社グリムス／GNC 共存の森		
		NPO 法人 MERRY PROJECT／GNC 共存の森		
植林実施者	GNC Japan			
植林本数 ・面積	計	予定	実績	繰り越し
		約 175,500 本 (約 65ha)	約 60,000 本 (約 20ha)	約 115,500 本 (約 45ha)
樹種	ヨーロッパアカマツ <i>Pinus sylvestris</i> (在来種) の 2 年生苗			
植林作業	アルタンツェツェグ (セレンゲ県ボゴントグループ) トウメンナサン (セレンゲ県森林局職員) ツォゴー (GNC Mongolia スタッフ) ボゴント村の村民など約 10 名他			

2. 植林時の作業写真



写真 1. 植林時の状況



写真 2. 植林時の状況



写真 3. 植林時の状況

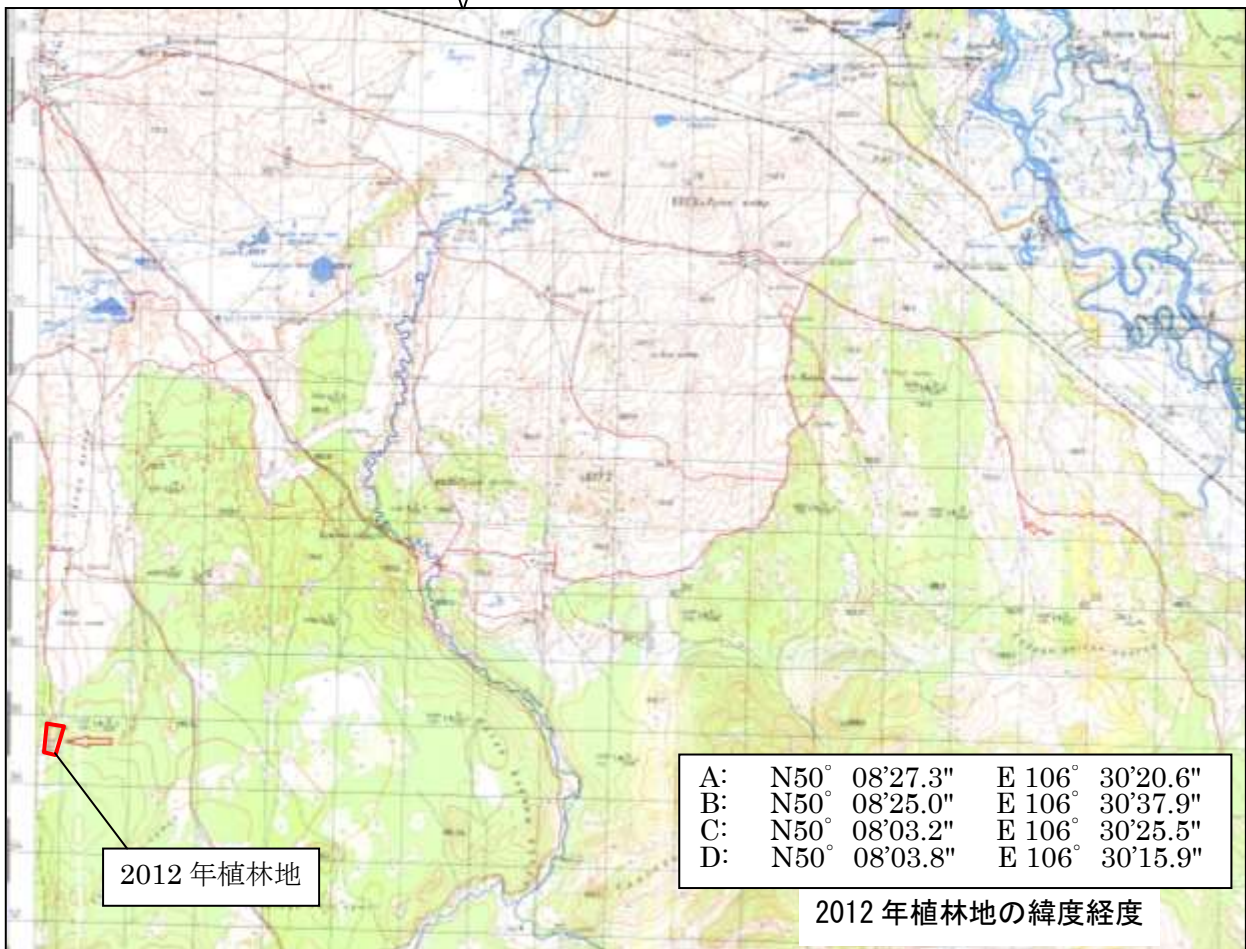
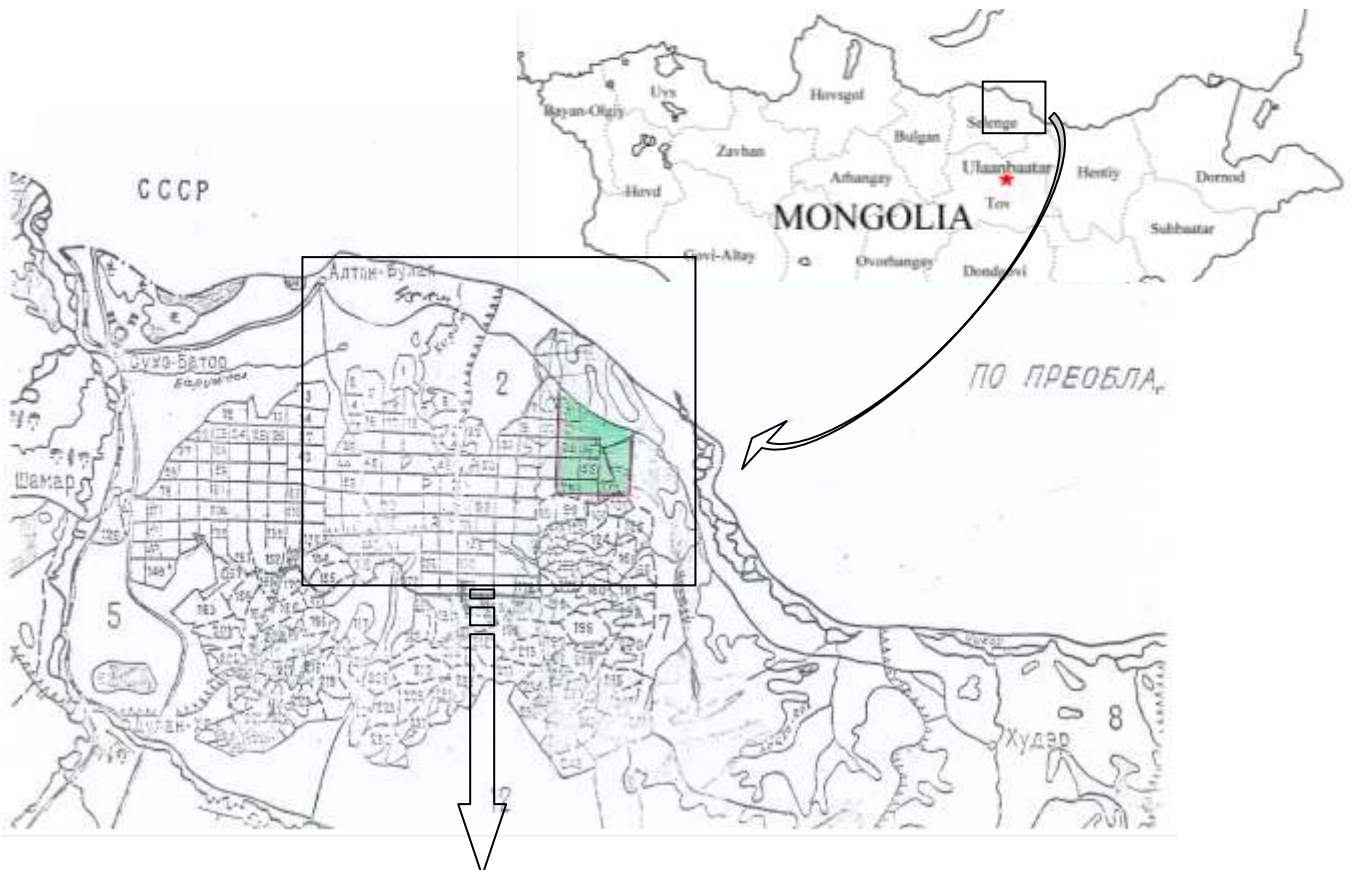


写真 4. 植林時の状況



写真 3. 植林作業を手伝っていただいた方々の集合写真

3. 植林箇所位置図



2012年植林地位置図

4. 2012年植林の概況報告

4-1. 春季の苗畑の状況

2011年～2012年の冬季～早春季にかけて、セレンゲ県では無積雪であった。これは近年起こっていない気象状況であり、地球温暖化による異常気象の一端かも知れない。

このため2012年の植林前の春季の苗畑では、葉が黄色く枯れた色に包まれていた。セレンゲ県森林局の話に寄れば、セレンゲ県の各地の苗畑で同様の枯れ上がりの傾向がみられるとのことであった。春季の苗畑状況写真を右に示す。

葉は黄色く枯れた色であったが、梢端部の芽は生きている苗が確認できたため、これらを植林することとした。植林前に多くの苗がこの無積雪により被害を受けたため、2012年の植林は予定本数を大幅に下回ることとなった。



無積雪のため乾燥し多くの苗が黄色く枯れ上がる苗畑の状況
(2012年4月5日撮影)

4-2. 植林時の状況

2012植林地はアルタンボラグ村トジーンナルスのタリーンノローに位置する。トジーンナルスでは1996年の火災跡地で2000年以降大規模に植林が行われてきた。2012年の植林地は、残木や切株が多いため機械が容易に稼働できずに植林が見送られてきた場所を選定し植林を実施した。このため、手作業による残木除去作業などで過重な負担がかかった。

植林地では家畜の放牧は全く行われておらず、住民も居住していない。土壌は砂壤土で黒色、植生はイネ科やキク科の下層植生が密生、草丈の長いものは秋に1m程に達しているものも見られる。10年程前は林地であったが、その後の天然更新がうまくいっておらず、植林による木本植生被覆が望まれる。右に植林時の状況写真を示す。



植林に用いた苗 (2012年5月9日撮影)



植林時の状況 (2012年5月9日撮影)

4-3. 夏季の状況

8月の時点で、苗木の活着は不良な箇所が確認されたため、9月下旬にこれらの箇所について再植林を行った。



夏季の状況 (2012年8月24日撮影)



夏季の状況 (2012年8月24日撮影)

5. 森林火災対策

トジンナルス周辺では、2012 年春は森林火災が数件起こった。これまでGNCは植林地を火災の延焼から守るための応急処置として植林地の外周で防火帯を造成してきた。一方でモンゴルの森林法では、植林地は村と植林実施者が火災対策を行うこととなっている。

このため、まず 2012 年の火災危険期における行政側の対策の状況を把握した。

アルタンボラグ村では村役場に森林保護官が 3 名配備されており、次のように林野火災対策が取られている。

2012 年春季は特に乾燥しているため、セレンゲ県からも嚴重に火災対策を実施するように促されているとのことであった。

アルタンボラグ村を一望できる丘の上でパトロール隊が常駐し、見張りと注意喚起及び初期消火活動が行われた。幸い 2012 年は乾燥していたにもかかわらず、件数が少なくロシアからの延焼もすぐに消し止められた。ただ、ロシア側では火災が多発しており黒煙白煙が空を染めていた。

パトロール隊が常駐したことにより、特に住民への注意喚起の効果があったものと思われ、火の不始末がほとんどなかった。アルタンボラグ村では今後ともパトロール隊を配備させるとのことである。

しかし、初期消火で消化できなかった場合に短時間で現場へ向かえるような応援部隊の整備が望まれる。また、連絡体制の面でもアンテナの届かない場所や、組織別の縦割りの構造など連絡体制にも改善が望まれる。

このため、GNCは森林火災対策としてセレンゲ県森林局やアルタンボラグ村、地域住民、国境警備隊などが横のつながりをもって林野火災に対処できるように、今後とも各関係機関と協議を重ね火災による延焼を最小限に抑えるよう現場にて調整役を務める。



3 月 22 日にロシアから越境してきた火災跡



丘の上で常時見張るパトロール隊



パトロール隊の消化機材



ロシア国境沿いの火災の状況 (2012 年 4 月 6 日 13:32)

6. 2013年の植林について

2012年は早春季の異常気象により苗木の多くが乾燥害に遭ってしまったが、2013年も例年通り植林を実施する予定である。その際、2012年の植林予定に満たなかった本数面積については2013年の植林に合算して植林する予定である。場所についてはセレンゲ県森林局の協力のもと、数百ヘクタール規模の植林適地を確保できる見込みである。



植林地写真



植林地写真